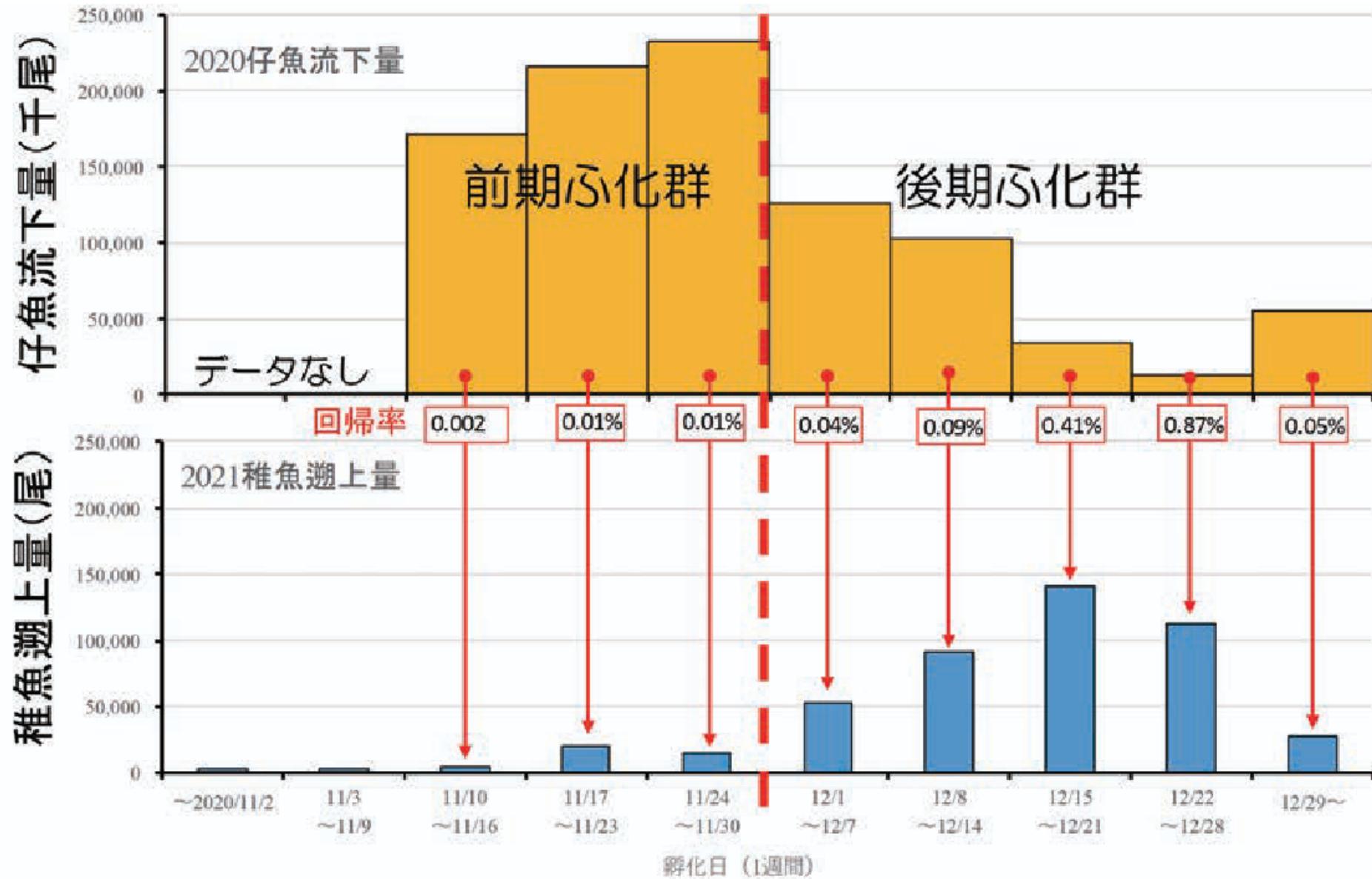


山梨県におけるワカサギ増殖 Ⅲ

今後のワカサギ増殖に向けて

第28回ワカサギに学ぶ会
令和7年12月4日、12月5日
於：青森県水産ビル7階大会議室
山梨県漁業協同組合連合会
参事 大浜秀規

物部川におけるアユの仔魚流下量と稚魚遡上量（2020-2021）

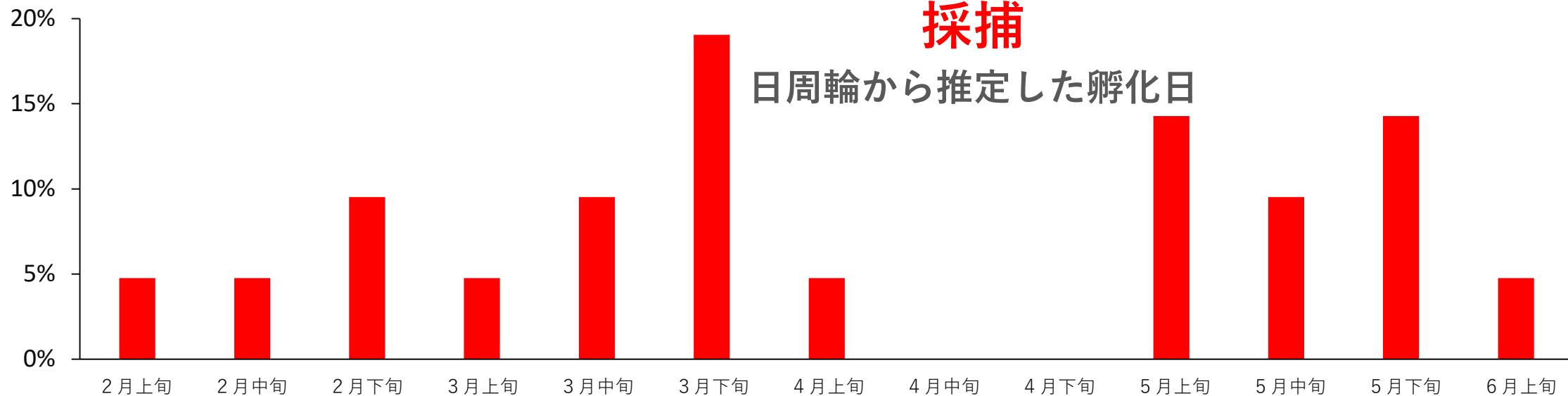


■物部川でのアユの仔魚流下量、稚魚遡上量及び回帰率

出典：水産庁HP
ポーズにならない！釣れるアユ釣り場づくり

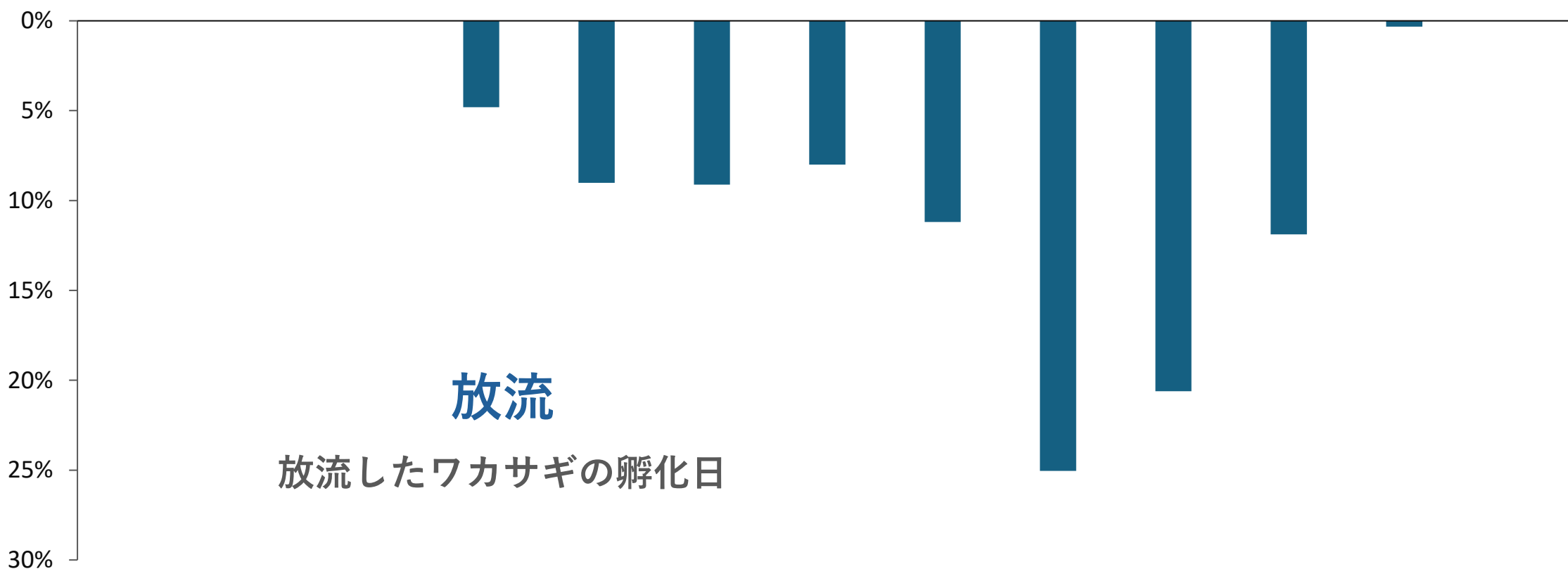
採捕

日周輪から推定した孵化日



放流

放流したワカサギの孵化日



ワカサギの誕生日

放流と採捕の違いから言えること

- ・ 自然産卵由来のワカサギがいる。
- ・ 自然産卵が、早い時期から遅い時期まで資源に添加している。
- ・ 増殖放流したワカサギが、生残しないときもあるみたい。
- ・ 日齢査定したワカサギは21尾だけなので、確定的なことは言えない。

ワカサギの誕生日

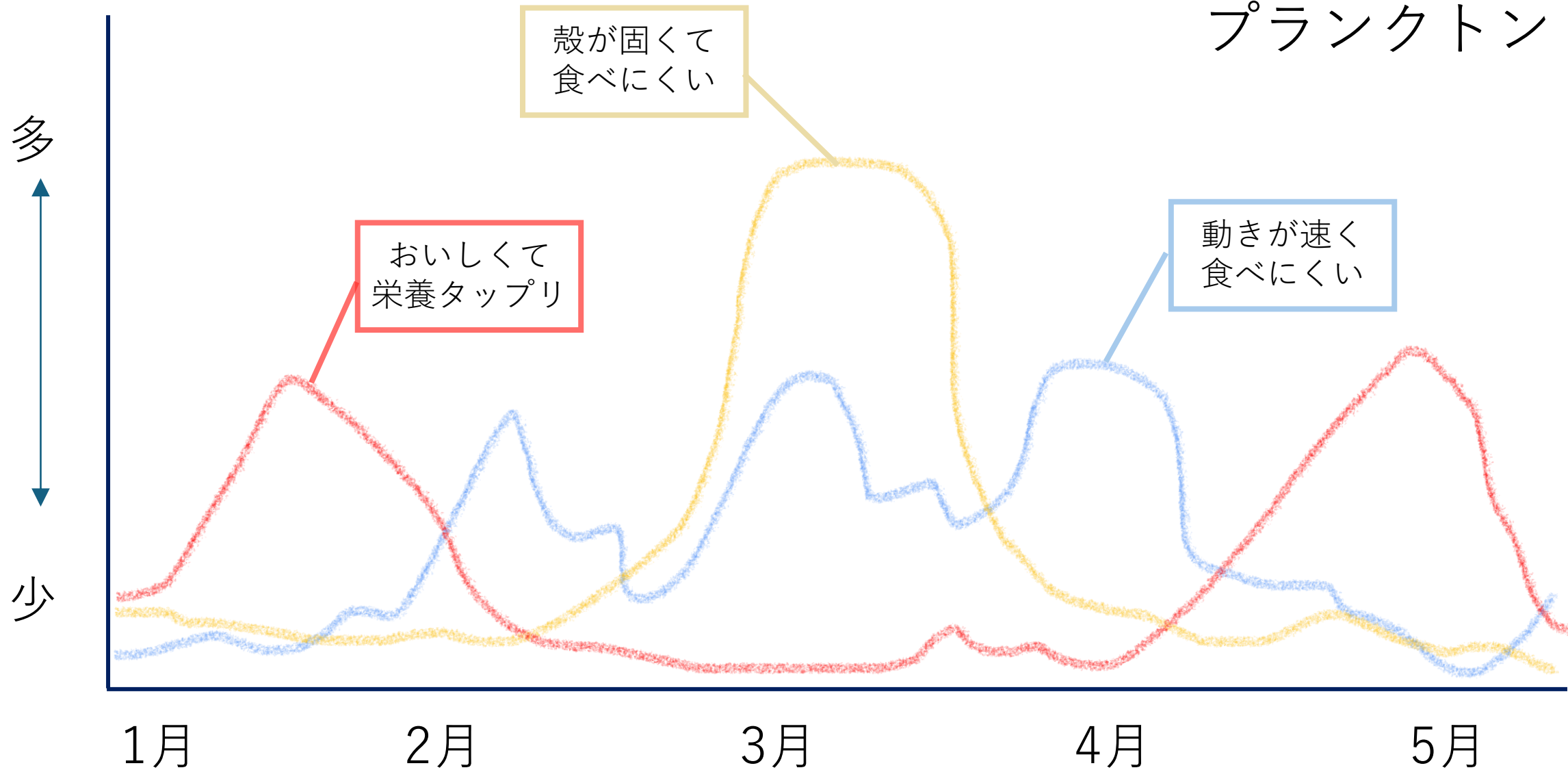
放流と採捕の違いが示していること

- ・ 河口湖では、自然産卵が資源に大きく貢献している。
- ・ 自然産卵は長期間（早くから遅くまで）、広範囲に行われるので、資源安定のために効果的かつ重要。
- ・ 増殖放流は必要だが、自然産卵をできる限り保全・活用すべきである。

ワカサギの漁獲量はどうして決まる

- 産卵 ← 親魚数
- ふ化 ← ふ化率（食害、水カビ、干出）
- 生残 ← **飢餓**、食害、移動（流出）
- 漁獲 ← 漁場、漁獲圧、時期、漁具・漁法

プランクトン



移植卵のふ化日

多



少

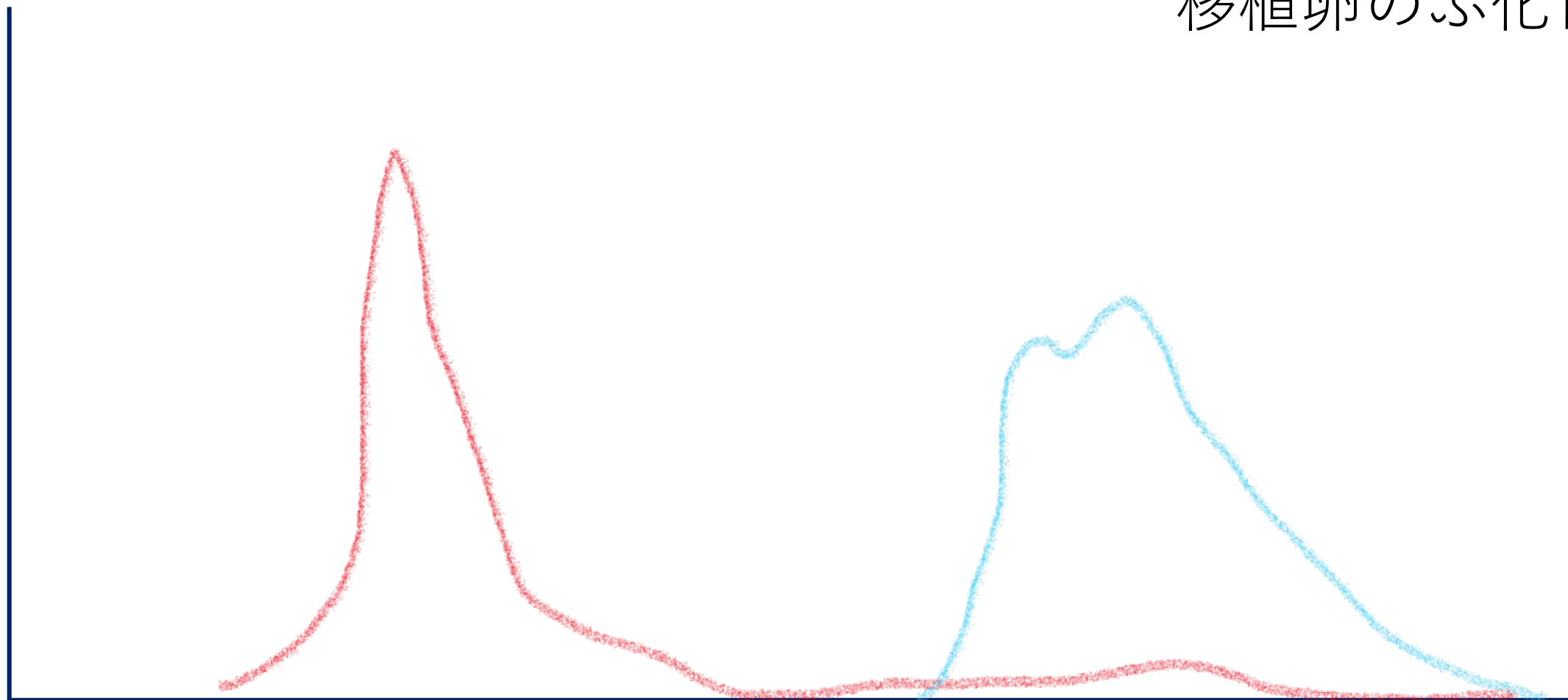
1月

2月

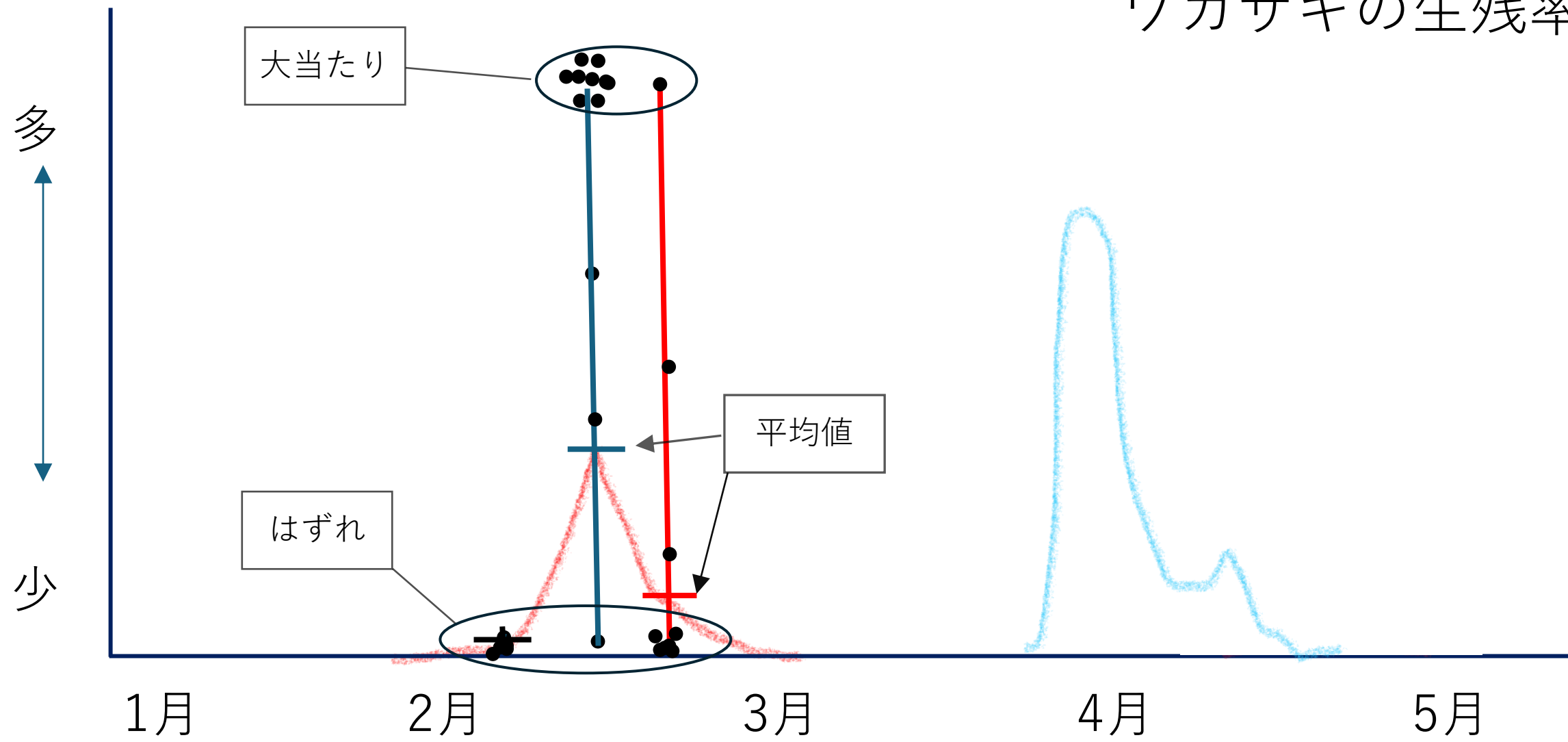
3月

4月

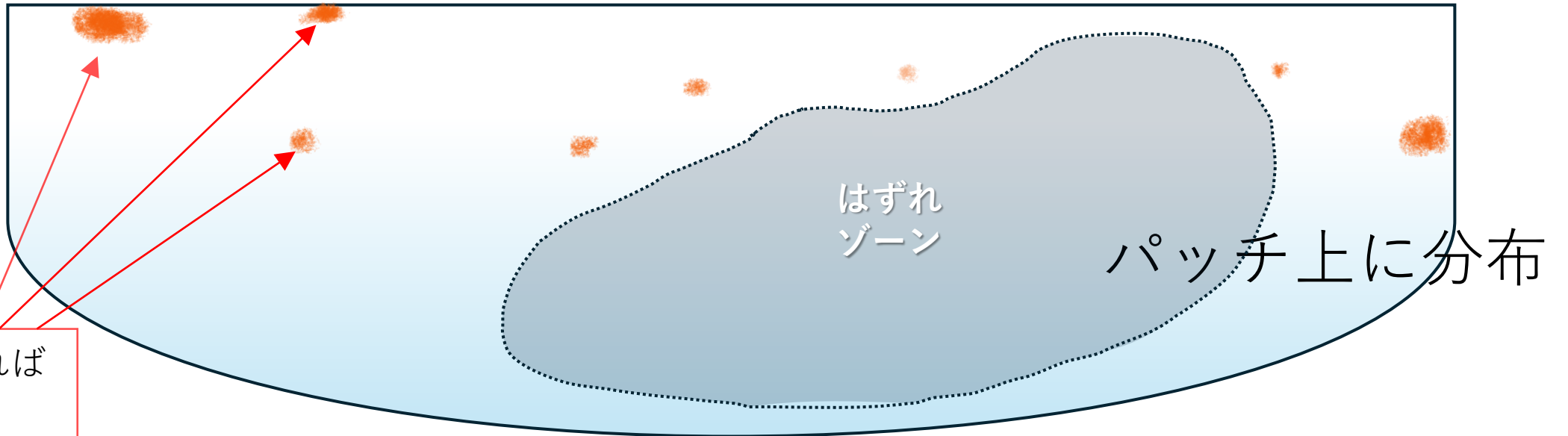
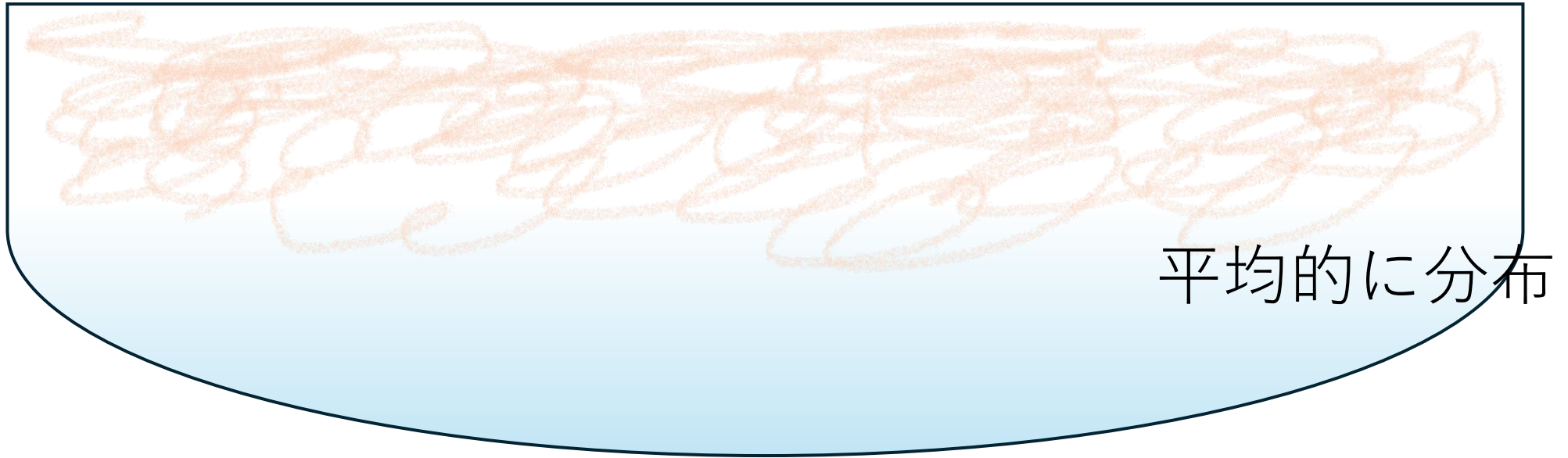
5月



ワカサギの生残率



プランクトンの分布



今後の展開

ワカサギ資源を高位安定的に維持



①自然再生産の助長

→ 減水の回避、食害の低減、産卵場の造成、卵を回収し管理

②適切な時期に適当な数量の放流

→ 入手先を分散。複数回放流。（不安定でなければそのまま）

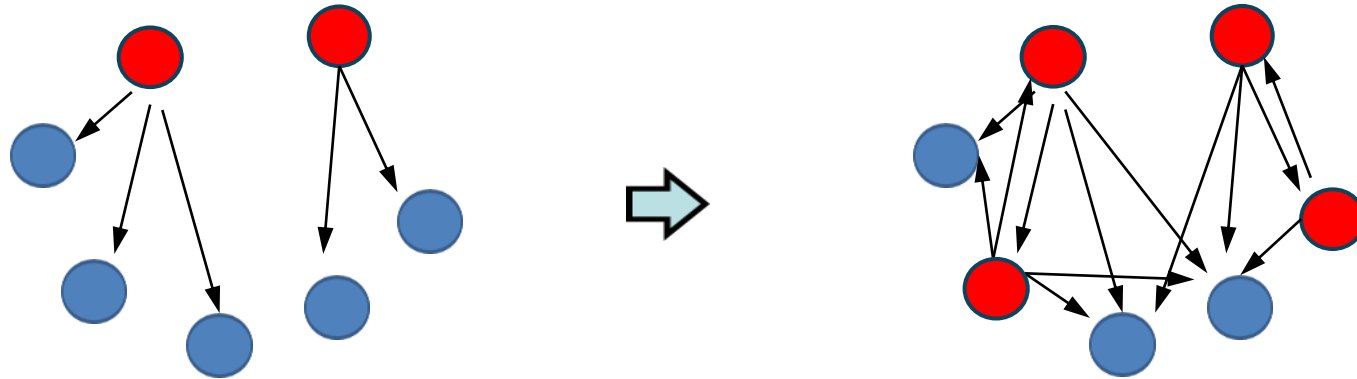
③自家採卵

→ 可能性の検討 → 親魚の採捕 → 自家採卵の実施

将来的展開

ワカサギ資源を高位安定的に維持

確実に種卵が入手できるよう、ワカサギ種卵の供給湖沼を増やし**ネットワーク化を図ることが目標**



令和7年度 ワカサギ放流種苗協議会

令和7年1月23日(木)13:30
河口湖漁業協同組合2階会議室

< 次第 >

はじめに

今シーズンの釣果状況及び令和7年度増殖計画（各漁協）

卵消毒、試験研究に関する情報提供（水産技術センター）

今後のワカサギ増殖事業について（県漁連）

意見交換

< 希望数量 >

漁協名	入手先	数量(百万粒)	形 態	時 期
山中湖	網走	300	受精卵	3月
河口湖	網走	200	受精卵	3～4月
	西網走	200	受精卵	
	芦ノ湖	100	受精卵	
西湖	河口湖	30	粘着性除去卵	3月
	芦ノ湖	10	粘着性除去卵	4月
精進湖	河口湖	20	受精卵	3月中旬
桂川	網走	3	受精卵	4月

< 出席者 >

山中湖漁協：組合長 天野三代治、理事 高村信雄

河口湖漁協：組合長 古屋和雄、専務理事 古屋清晴、総務理事 外川新吉
職員 渡辺和成、磯辺武樹

西湖漁協：組合長 三浦 久

精進湖漁協：組合長 渡辺秀夫、理事 渡辺 充、監事 小林直彦

芦ノ湖漁協：組合長 福井達也、職員 結城陽介

水産技術セ：研究員 谷沢弘将

県 漁 連：参 事 大浜秀規

「ワカサギ放流種苗協議会」

- 平成元年から
- 関係漁協＋水技センター＋漁連
- 協議内容

種苗の供給

釣果状況

試験研究

情報交換

顔の見えるお付き合いが重要